

世界に羽ばたけ！ 米山学友^⑮

医師として他者のために生きる



医療キャンプで歯科診療するミアンさん
(左から4人目)

歯科医師不足解消を期して

「他者のために考え、行動する人間であれ」。それが、ミアンさんが亡き父から受けた教えでした。地方自治体の長を務めた父は、地域に必要な学校や寺院を設立し、常に貧しい人々の生活改善を一番に考える人でした。そんな父の後ろ姿を見て育ったミアンさんも、多くの人を助けられる医学・歯学の道を志すようになりました。

バングラデシュの歯科医師不足は深刻です。WHO（世界保健機関）の報告によると、OECD（経済協力開発機構）諸国の中で平均的と言われる日本の歯科医師の割合が、人口1万人に対し7人であるのに比べ、バングラデシュでは1人未滿。感染症予防や健康維持のために口腔環境の重要性が指摘されても、一般の人々はなかなか受診できません。最近になって、政府も歯科医師を養成する教育機関を増やし改善を図っていますが、質の高い教員が不足しているのが現状です。

ミアンさんは「国の役に立ちたい」と研究分野を歯科学に決め、ダッカ大学歯学部に入學。卒業後は大学付属シティ・デンタル・カレッジで助手となりましたが、教員数も少なく、教育内容などの面でも遅れを感じました。

「優れた歯科医を養成するには、教員も高度な資格をもたなければ」と、留学して博士号を取得することを決意。彼が選んだ留学先は、同じアジアで発達した技術を

もち、より高度な研究ができる国。一度は暮らしてみたいとあこがれていた日本でした。

愛をもらった米山奨学生時代

昭和大学の研究生として半年間の奨学金を得、2003年9月末、妻子を残して来日。日本食や文化にもすぐに慣れ、日本人が皆まじめに働き、国の発展を支えていることにも感銘を受けました。

翌年4月には「アジア最高レベルの歯科大学」と母国でも知られた東京医科歯科大学の博士課程に入學。うれしいことに1年後、薬学の研究者である妻も昭和大学の奨学金を得て留学できることになり、幼い息子と親子3人の生活を取り戻すことができました。しかし、研究と家庭生活の両立は難しく、研究成果を上げるには、支えが必要な状況でした。

米山記念奨学金に合格したのは06年。世話クラブは東京王子ロータリークラブ（RC）でした。大学生活では英語で事足りていたため、ミアンさんは、日本語をあまり話せず、交流には難しい面もありましたが、彼のまじめで礼儀正しい性格は会員にも伝わりました。例会に出席するたび、研究や家族のことを気遣って話しかけてくれた会員の笑顔、「日本のお父さん、お母さん」と慕うカウンセラーの荒木正信夫妻との旅行中、サプライズで妻の誕生日を祝ってもらったことなど、今でも「思い出すたびに心が温くなる愛情をたくさんもらった」と言います。

奨学金に支えられ、研究面でも順調に成果を上げて、東京医科歯科大学COE（文部科学省研究拠点形成等補助金）プログラムの「スーパー・スチューデント」に選ばれたほか、07年にハワイで開かれた学会で賞を受けるなど、多くの業績を残したミアンさんは、08年、博士号を最短期間で取得し、帰国の途につきました。

奉仕は自分に与えられた使命

帰国後、シティ・デンタル・カレッジの准教授として迎えられたミアンさんは現在、未来の歯科医たちを指導

バングラデシュは、都市国家を除けば、世界で最も人口密度の高い国。日本の約4割の面積に、1億6,000万人以上の人口を抱えています。その人口に対し、歯科医師数は約3,500人。この状況を改善するため、米山学友のMD・アノア・フサイン・ミアンさんは、歯科大学准教授として優秀な歯科医養成に励んでいます。また、医療キャンプを主催して、延べ7,000人を超える貧しい人々を無料で診療しています。



しています。専門の歯科薬理学は、今後重要になる分野であるにもかかわらず、博士号をもった教員はわずかであり、ミアンさんには大きな期待がかけられています。

また、帰国と同時に、ミアンさんは医療ボランティア活動にも精力的に取り組み始めました。

父の影響もあり、学生のころからさまざまな奉仕活動に参加していましたが、留学後は「医師として人に奉仕するのは、自分に与えられた使命」と思い定め、医療へのアクセスが困難な地方に出向き、貧しい人々に医科や歯科の無料診療を行う医療キャンプを開催。過去11回にわたって行ったキャンプで、延べ7,000人以上が無料で診療や投薬を受けました。

この種のキャンプを開催するのは容易なことではありません。協力してくれる医師や歯科医師、スタッフは同僚や友人、学生たちで、彼への信頼と好意から無償で参加を引き受けてくれていますが、その交通費や食事代、医薬品代などは、ほとんどミアンさんの私財で賄っています。製薬会社が協賛してくれることもあります。経済状況の悪化により、開催数を増やすのは困難です。

しかし、ミアンさんがこの医療キャンプにかける情熱は揺らぐことはありません。教員として歯科医を増やすのは未来への布石、それとともに、現在、必要な治療を受けられずに苦しんでいる人々のためにできる限りのことをしたい——。根底にあるのは、イスラム教徒としての篤い信仰心と、社会奉仕に人生を尽くした亡き父への

プロフィール

MD・アノア・フサイン・ミアン さん

(2006 - 08年 / 東京王子RC)
バングラデシュ出身。昭和大学研究生として来日後、04年に東京医科歯科大学博士課程に入学。08年、博士号を取得して帰国。現在は、ダッカ大学附属シティ・デンタル・カレッジの准教授。そのほか無料医療キャンプを主催する。



思い。父の名前を冠した基金をつくり、これからも最大限の支援を行っていききたいと、抱負を語っています。

「神に愛されたいと願うなら、神の創造物を愛さなければなりません。つまり、他者を愛し、他者のために生きなければならないのです。私の夢は慈善病院をつくること。貧しい人がいつでも必要な医療や歯科治療を受けられるようにしたいのです。難しい挑戦ですが、きっと神がこの夢の実現に力を貸してくれると信じています」

ロータリー米山記念奨学会事務局

米山記念奨学事業に関するお問い合わせ・ご意見、または「よねやまだより」についてのご意見は、(財)ロータリー米山記念奨学会まで、ぜひお寄せください。

TEL: 03-3434-8681 FAX: 03-3578-8281
Eメール: mail@rotary-yoneyama.or.jp

米山学友を中心とするロータリークラブが誕生！ —— 第2750地区 ——



米山学友を中心に国際色豊かなRCが誕生

2月11日、国内初となる米山学友中心のクラブ「東京米山友愛ロータリークラブ(RC)」の創立総会が開催され、初代会長の楊錦華^{ヨウキンカ}さん(中国/2002-05/東京日本橋RC)は「奨学生のときからロータリアンを見ていて、いつか自分も人々の力になりたいと考えていました」とあいさつしました。スポンサークラブは東京世田谷中央RCで、会員26人のうち学友は17人。ほかの会員も留学経験者が多く、国際色豊かな、平均年齢37歳という新世代のクラブです。3月16日に加盟承認、5月30日に都内で認証状伝達式が開かれます。認証状伝達式の問い合わせは、東京世田谷中央RC事務局(電話03-3403-8071)まで。